

() 実践研究の内容

1 少人数による指導（単元指導計画の作成）

単元指導計画とは、一言で言えばその単元を指導するための見通しである。

単元指導計画 3年「かけ算の筆算1」(2けた)×(1けた)の筆算 1			
単元目標	(2、3位数)×(1位数)の計算方法を考え、進んで筆算で処理することができる。 乗法の結合法則を用いて、工夫をしてかけ算をしようとする。 (2、3位数)×(1位数)の計算の仕方を数の仕組みや計算のきまりをもとに考えることができる。 (2、3位数)×(1位数)の計算の計算の仕方を理解する。		
ねらい	1 (2位数)×(1位数)の式に表し、十進位取り記数法に従って計算すればよいことを理解し、かけ算の筆算の課題をつかむ。	2 (2位数)×(1位数)で繰り上がりのない場合の筆算の仕方を理解する。	3 繰り上がりが1回ある場合の(2位数)×(1位数)の筆算の仕方を理解する。
学習活動	計算の仕方を考えよう。	1 2×4を筆算でやってみよう。	2 4×3を筆算でやってみよう
活動の流れ	1 問題を把握し、立式する。 2 既習の学習をもとに、12×4の計算の仕方を考える。	1 筆算の式の表し方を知る。 2 12×4の計算の計算の仕方を考える。	1 2 4×3の筆算を自分で考えて自由にやってみる。 2 繰り上がる処理の仕方を中心に
			4 繰り上がりが1回ある場合の(2位数)×(1位数)の筆算の仕方を理解する。 1 32×4を一の位にする。 2 繰り上がる処理の仕

この計画は、3人の教師がどの少人数の集団に対しても同質の安定した授業を行えることをねらいとして作成する。

本校の評価規準は、1単位時間の評価規準や方法が示されているので、指導時間ごとに児童の評価を持ち寄り、次時の指導を検討した。

2 補充的な学習の指導

単元指導計画に従って指導を進めていくが、その時間のねらいに達成できない児童が出てくる。そのような児童に対しては、児童・保護者の了解のもと、放課後に補充的な学習を行った。その中で、九九が不十分な児童に対しては九九の復習や練習、筆算での計算の仕方、繰り上がりがある場合の繰り上がる数の処理の仕方など指導していった。また、九九が不十分な児童は、授業中も九九の表を持たせて学習させることも行った。

3 習熟の程度に応じたコース別学習

単元指導計画に基づき指導してきた最後の段階（学習の習熟を図る段階）で、習熟の程度に応じたコース別学習を行った。

コース別学習のグループ編成については、事前に児童にそれぞれのコースの学習内容を簡単に説明し、どのコースで学習したいかを児童の希望により選択する方法をとった。

児童の希望を集計し、個々の児童について希望のコースと学習内容が合っているかを3人の教師で判断し、人数の調整をした上で最終的にコースの決定を行った。

それぞれのコースの学習内容と人数は次のようになった。なお、それぞれのコースを指導する教師については、経験や指導力を考慮して決定した。

(1) わくわくコース(21名)...発展的な問題。虫食い算で思考力・判断力を高める。

めあて かけ算の筆算の仕組みを理解し、かくれた数字を見つけることができる。	
かくれた数字は、いくつかを考えよう。	
1 学習課題を確認し、学習内容を知る。	学習課題を確認し、学習の手順を知らせることで、意欲を喚起させる。
2 レシートを見て、かくれた数字はいくつか考え、説明する。	かけ算の筆算の手順や仕組みを踏まえて、かくれた数を考えさせる。
	かけ算の筆算の手順や仕組みを考えて、かくれた数字を見つけ、説明することができる。 (知識・理解・表現・処理...ワークシート、発表)

(2) めきめきコース(26名)...教科書程度の問題が安定してできるようにする。

めあて かけ算の筆算を使って、文章題を解くことができる。	
いろいろな買い物しよう。	
1 学習内容を確認し、学習内容を知る。	学習内容を確認させ、知らせることで意欲を喚起させる。
2 文章問題を解き、計算の仕方を説明する。	かけ算の意味を考えながら筆算を使って、立式・求答させる。また計算のしかたを説明させることにより、より確かな計算力の定着を図る。
1たば175枚の色紙を6たば買います全部で何枚になるでしょうか。	かけ算の意味を考えながら立式・求答し、計算のしかたを分かるように説明することができる。(知識・理解...ワークシート、発表) つまずいている児童には、自力解決できるよう文章題の手引きや計算の仕方を書いたヒントカードを用意する。

(3) すいすいコース(15名)...具体物・算数的活動を取り入れたり、補充的な学習を行う。

<p>めあて かけ算の筆算の仕方が分かり、正しく計算できる。 代金はいくらになるかな。</p>	
<p>1 学習課題を確認し、学習内容を知る。</p>	<p>学習内容を知らせ、確認することで、意欲を喚起させる。</p>
<p>2 文章題を解く。</p>	<p>かけ算の筆算を使って立式・求答し、既習事項を再確認させる。間違いやすいところに気づき、正確に計算するための方法を確認することができたか。(知識・理解...発表、ワークシート、観察)</p>
<p>3 練習問題にチャレンジする。</p>	<p>できるところから取り組ませ、達成感を味わわせたい。つまり、できている児童には、ヒントコーナーを活用させる。</p>

4 コース別学習後の感想(代表的なもの)

<p>わくわくコースの児童 むずかしかったけど、楽しかった。3つの数がかくれた問題やもっといっぱい数がかかれている問題を勉強してみたい。</p>
<p>めきめきコースの児童 問題づくりやプリントもとても楽しかったです。だけど、もうちょっと計算がはやくなるようにがんばりたいです。</p>
<p>すいすいコースの児童 わたしは、プリントでまちがえなかったです。前のコース別のときよりがんばったと思います。次は全部できるようになりたいです。</p>

5 実践記録・評価記録の累積

(1) 実践記録簿

日々の授業について、児童の理解の程度、つまづきの原因、この単元において必要な既習事項や基礎・基本、効果的な教具などを記録に残していく。今年度の記録を累積することで今後の指導に生かすことができる。

(2) 自己評価カード(ふりかえりカード)

児童が学習でどんなことを思ったり、考えたりしているのか。児童にとってその授業は分かりやすかったのか、難しかったのか等を把握するために「ふりかえりカード」に児童の授業の感想等を書かせている。これによって、児童の内面を知り、単元指導計画の修正を行ったりすることができる。また教師が個人内評価も記入している。

() 成果と課題

1 成果

(1) 単元末テストの到達率及び平均点の向上

この単元指導後行ったテスト(愛媛県教育会)の到達率・平均点は、次のようであった。

	考え方(%)	表現・処理(%)	知識・理解(%)	平均点(点)
かけ算の筆算	83	93	89	90

到達率 = (児童の正答数の合計) ÷ (問題数 × 児童数) × 100

これにより、3年の児童全体として、「かけ算の筆算」において基礎学力が身につけてきていると判断することができる。このような向上が見られたのは、算数が苦手な児童の伸びが大きい。

(2) 児童の意欲の高まり

上の感想にも見られるように、どのコースの児童もおおむね意欲的に学習することができた。また1・2学期に「算数が好きかどうか」アンケートで調べたところ、「とても好き」「好き」という児童が、1学期70%、2学期76%であった。「算数が嫌い」という児童は、1学期14%だったが、2学期2%に減少した。

2 課題

- (1) 習熟の程度に応じたコース別学習以前の単元の指導をいかに充実させるか。基礎・基本の理解・習得を高めるとい意味でレベルが高く安定した単元指導計画を作成すること。
- (2) 教師の指導力によって、児童の学習の成果に大きな差ができないように、指導力を高める校内研修の充実。
- (3) 発展的なコースで学習するにふさわしい問題等の教材開発やその累積。
- (4) 補充的なコースでどのような効果的な指導を行い、児童の理解・習熟を図っていくか。

() 成果の普及方策

この取組は、平成14年11月15日の学力向上フロンティア事業・第1回研究指定校公開授業で公開した。また、この取組やその他の学年における学力向上フロンティア事業の取組は、本校のホームページで公開している。

平城小学校ホームページ <http://ehime-misho-e.ed.jp/hirajyo/hirajyo.htm>